CLOSE UP

戦いの場は、畳から社会へ。

小学生にして身長178cm、体重約100kg。その恵まれた体格が強豪校のコーチの目に留まり、中学からはじめた柔道。高校では東北王者の座に着いた。東京の強豪大学からの誘いもあった。しかし彼が選んだ道は、全国的には決して強豪とは言えない本学だった。

現在、中堅ゼネコンの株式会社錢高組で、白鳥さんは人事課の一員として採用活動業務に励んでいる。柔道家として高みを目指せる資質がありながら、何故あの時、強豪校からの誘いを断り、本学を選択したのか。そこには、ずっと柔道一筋だったからこその逆の理由があった。「中学高校は柔道まみれの毎日でした。でも、考えたんです。大学でもその生活を続け、勉学の苦労を知らずに社会に出るのはどうなのかと。柔道も続けながら、勉学にも打ち込める。その環境が東北学院大学にはありました」。

実は白鳥さんが副主将を務めた代は、17年ぶりに東北王座に輝いた黄金世代。輝かしい実績を置き土産に競技としての柔道からは卒業したが、やはり根っからの武道家。闘争本能を押さえきれず、総合格闘技やブラジリアン柔術の世界へと足を踏み入れ、特にブラジリアン柔術ではアマチュア大会で優勝を果たすなど、実力は趣味の域に留まらない。

その原点も柔道。白鳥さんは転勤で仙台へと戻ってきたことを機に、忙しい合間を縫って週に一度、母校で後輩の指導に当たっている。そこには、技術を教えるという単純な理由ではなく、柔道一筋で歩んできた彼だからこそ伝えたい、ある思いがあった。「自分がそうだったように、一般企業の会社員の道を選んだ時にも、柔道で培った経験は必ず役立ちます。さまざまな将来の選択肢があることを後輩たちに伝え、社会で活躍する後押しができれば。それが、自分なりの柔道界への恩返しかもしれません」。

Playback

平成26年度河北新報旗争奪東北学生優勝大会

白鳥さんが4年次に挑んだ同大会は、男子7人制で、7校がトーナメントで優勝を争った。秋田大との決勝は、白鳥さんは一本勝ちを収めたものの、副将戦までリードを許す苦しい展開。しかし当時の主将が大将戦で、見事な一本勝ち。逆転で17年ぶり25度目の栄冠をつかんだ。

株式会社錢高組 東北支店 人事課

白鳥（しらとり） 弘樹（ひろき）さん

青森山田中学・高等学校を経て、本学経済学部経済学科に入学。柔道部では副主将を務め、4年次の河北新報旗争奪東北学生優勝大会では17年ぶりに優勝。東北学生体重別選手権大会100kg超級２連覇（平成25年度、26年度）。平成27年4月、株式会社錢高組に入社。